

学校は楽しいところだ。友だちがいて先生がいて、いろいろな出会いがあり、学びがある。子どもは、常に未来に向かって伸びていこうとしている。そうした状況を創りだしていくために、教師をはじめとする多くの人たちが毎日、力を注いでいる。子どもたちが「学校は楽しいよ!」と即答できる学校は素敵だ。新年にあたってそんな魅力的な学校を描いてもらった。

私が描く “魅力的な学校”

子どもたちが未来に向かうために

惹きつけるがキーワード

作家 志茂田景樹

おそらく電子黒板を使い、児童生徒の一人ひとりがノートパソコンを机に広げての授業風景が当たり前前のことになってくる。子どもたち一人ひとりが1学年上の上級生を1人、何でも教えるパートナーにするのはどうだろう。休み時間にノートパソコンを介していま終わった授業でよくわからなかったことを教えてもらう。何でも教えるパートナーは、すでに習ったことを教えるわけだから教えやすい。

また、覚えていたことをさらに確かな知識にする復習効果もあって楽しく教えることができる。

むしろ、これから始まる授業について訊いてもいい。何でも教えるパートナーは、1年前に習ったときに起きた面白いエピソードを思い出し、教えてくれるかもしれない。

たとえば、風邪を引いてマスクを掛けて教室に入ってきた先生が、そのマ

スクを外したら鼻の下に桜の花びらがくっついていたぞ、などと教えられたら授業を受けるのが楽しくなるかもしれない。

最上級生になると、何でも教えるパートナーは欲しくても上級生がいない。しかし、上の学校へ進んだ何でも教えるパートナーだった先輩とは信頼関係ができていくはずだから、遠慮なくいろいろと教えてもらえばいい。

電子黒板で教えるとなると、先生もその特色を出しやすくなるかもしれない。

歴史の授業などで、コンピューターグラフィックが得意だったら、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康のそれぞれの似顔絵を描いて、3人がそれぞれに成し遂げたことを教えながら、人相からその個性にふれるのも児童生徒はとて

も興味津々に聞いてくれるに違いない。



「豊臣秀吉はサルに似た顔をしてい

たから陰でサル、サル、と呼ばれてい